

令和4年度第1回 社会教育委員会議 次第

日 時：令和4年6月27日（月）13時00分から

場 所：札幌市教育委員会6階 A・B会議室

1 報告事項

第3次札幌市生涯学習推進構想におけるアンケート調査の実施について

2 協議事項

協議テーマ「人生100年時代の生涯学習（2回目）」

第3次札幌市生涯学習推進構想におけるアンケート調査の実施について

趣旨: アンケートについて事前説明。新規設問内容にご意見があればお伺いしたい。

1 第3次生涯学習推進構想における進捗管理

○アンケート調査の実施については、3次構想上、次のとおり定めている。

- ≫ 策定から5年を経過した令和3年を目途にアンケート調査を実施し、市民ニーズ及び成果指標の達成状況を把握する。
- ≫ 関連事業実施状況調査で把握した事業の実績とあわせて、構想を評価し、必要に応じて構想の見直しを図る。(以上、第5章、P36)

2 経緯

○第3次生涯学習推進構想の策定(平成29年3月)にあたり、生涯学習について、アンケート調査を実施。

○アンケート調査を踏まえ、3次構想の成果指標を次のとおり設定。

- ≫ 【生涯学習をしている人の割合】
平成27年度 58.6% →目標 令和7年度 65%
- ≫ 【生涯学習をしている人の中で、現在の学習や活動の環境に満足している人の割合】
平成27年度 55.4% →目標 令和7年度 70%

○令和3年度は、本市における新型コロナウイルス感染症対策に係る体制強化等の影響により年度内の調査実施・完了が困難となったため、実施を延期。

3 令和4年度調査の実施

○基本的には、経年変化をみるため、前回同様の設問で調査を実施。

○現在の生涯学習を取り巻く環境変化等を踏まえ、市民ニーズを的確に把握するため、新たな設問を2～3項目程度、追加したいと考えている。

(新規設問イメージ)

- ≫ 人生100年時代においては誰もが生涯にわたって学びその成果を日々の生活や活動に生かせることが重要であり、身近な施設において市民が学びを深められるような生涯学習機能の強化には何が必要か。
- ≫ 生涯学習が地域づくりや絆づくりに役立ったと思う人の割合など、3次構想のポイントであるつながりづくりの状況を把握できる項目を追加(3次構想策定時の教育委員意見を踏まえた設問)。
- ≫ 新しい技術を活用した学びが充実される一方で、誰一人取り残さない社会の実現に向けてデジタルデバイドの解消は重要。オンラインでの学習に取り組めない理由、取り組みたくない理由は何か。

○具体的には別紙のとおり。委員の皆さまに、事前にご意見があれば伺いたい。特に、質問の聞き方や回答の選択肢の内容についてお聞きしたい。

4 実施スケジュール(予定)

○令和4年8月～9月 契約・調査準備、10月 調査実施、11月～12月 集計、令和5年1月～2月 報告

1 調査概要(予定)

- 調査目的：第3次札幌市生涯学習推進構想について、市民ニーズ及び成果指標の達成状況等を把握するとともに、今後、構想の推進に必要な事項の検討調整を行う参考とするため
- 調査対象：札幌市全域の18歳以上の男女5,000人
- 調査方法：調査票を郵送し、返信用封筒で回収
- 調査期間：令和4年10月頃

2 アンケート設問(全体)

凡例: H27 追加項目 R4 追加候補

問1 生涯学習のイメージ どのようなことを思い浮かべますか?	
問2 生涯学習への取り組み いま何かに取り組んでいますか?	
→いる	問2-3 生涯学習活動を行う時間帯
	問2-4 学習や活動に関する情報の入手先
	問2-5 学習や活動の目的
	問2-6 身につけた知識・技能や経験の活用(どのように生かしているか)
	問2-7 身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かしたい
	→思う 問2-7-1 身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動へ生かすにあたっての課題
	問4 学習や活動の環境に対する満足度
→	問4-1 学習活動の環境に満足していない理由
問8【新規】学習や活動を通じて「つながり」ができたか	
→できない	問8-1【新規】学んだ成果をつながりづくりに結び付けるにあたって必要なこと
→いない	問2-8 生涯学習を行っていない理由
問2-1 生涯学習の方法	
問2-2 生涯学習を行う場所	
→公共施設	問2-2-1 最も利用した公共施設(図書館、コミュニティ施設ほか)
問2-2-2【新規】公共施設が身近な学びの場として利用されるために必要なこと	
問3 今後、学習や活動したいこと	
→	問3-1 学んだ成果の活用意向(どのように生かしたいか)
問5 環境を整えるため必要なこと	
問6 地域での学習が活発になるために必要な施策	
問7 どのような人材を育成していくべきか	
問9【新規】インターネット等を利用したオンライン学習を行っていますか。	
→	問9-1【新規】「やってみたいが、できない」理由
→	問9-2【新規】「やりたくない」理由

※設問番号「問〇」は、「第3次札幌市生涯学習推進構想」資料編P39～P45に記載の前回調査(平成27年度調査)の番号をもとにしています。

3 新規設問イメージ

○身近な施設で学びを深められるよう生涯学習拠点機能を強化するための質問

- 問2-2-2【新規】身近な学びの場として、もっと利用してもらうために、何が重要だと考えますか。
- ・学びのコーディネーター／自由に立ち寄り、集まることができるスペース／
 - ・インターネット等の通信環境の充実／行事、イベントの充実／講座、セミナーの充実／
 - ・図書等の資料や相談機能の充実／その他／特になし／わからない

○3次構想の柱の一つである「つながり」づくりの状況把握のための質問

- 問8【新規】学んだ成果をまちづくり活動に生かす場合には、つながりづくりが大事だと思いますが、学習や活動がつながりづくりに役に立ちましたか
- ・地域づくりの取組に参加できた／人との絆づくりができたと感じた／
 - ・オンラインの取組によって、新たなつながりが広がった／
 - ・その他／わからない／役に立たなかった
- 問8-1【新規】「役に立たなかった」と答えた方にお聞きします。
- 学んだ成果をつながりづくりに結び付けていくためには、どのようなことが必要だと考えますか。
- ・まちの活性化のためのノウハウや手法を学ぶこと／
 - ・地域で活動を実践されている方の話を聞くこと／
 - ・高齢者の健康づくりや子どもの健全育成など、つながりに結びつきやすいテーマに応じた講座／
 - ・まちづくり活動団体の情報／
 - ・まちづくり活動を体験する機会の充実／その他／わからない

○デジタルデバイド解消のための質問

- 問9【新規】あなたは、インターネット等を利用したオンライン学習を行っていますか。
- ・インターネット配信講座の視聴(リアルタイム型)／
 - ・通信教育などのオンライン講座の受講(オンデマンド型)／
 - ・テレビ会議システムを使った講座への参加(双方向型)／
 - ・資格取得などのための学習アプリの活用／その他／
 - ・やってみたいが、できない／やりたくない
- 問9-1【新規】「やってみたいが、できない」と答えた方にお聞きします。できない理由は何ですか。
- ・パソコン、スマートフォンの使い方が分からない／費用が高い／
 - ・パソコン、スマートフォンを持っていない／
 - ・Wi-Fi等のインターネット環境が整っていない／その他／わからない
- 問9-2【新規】「やりたくない」と答えた方にお聞きします。やりたくない理由は何ですか。
- ・必要性を感じない／インターネット上のトラブルが不安／
 - ・コミュニケーションがとりにくい／技術の取得が面倒／
 - ・みんなで集まって学習したい／
 - ・パソコンやスマートフォン等の機器を使いたくない／
 - ・費用がかかる・高い／Wi-Fi等のインターネット環境を整備したいと思わない／
 - ・その他／わからない

(第3回会議の意見)

(論 点)

【幼児青少年期】

- 学ぶことの楽しさを知る工夫…③
- 地域と関わる実践的な学びの必要性…②
- 子どもの学びや活動を支える存在の重要性…②
- 子育て家庭を孤立させない地域のつながりの必要性…①

【成人期】

- まちづくり活動やボランティア活動に参加すること…②
- 時代の変化と個々人の価値観の多様化に対応した学び…③
- ライフサイクルの節目に対応した学び…③
- 子育て家庭を孤立させない地域のつながりの必要性…①

【高齢期】

- 社会から孤立しない(つながる)学びの機会…①
- 時代の変化に対応した学びの必要性…③
- 新たな興味関心を引き出す学びの必要性…③
- 学びから実践につなげる工夫(仕掛け)…②

☞キーワード①【つながりを生む学び】

◎都市化が進み個人や家庭が孤立しがちな中、
新たな「つながり」を生み出すには、どのような工夫が必要か

- ▶子育て家庭を孤立させない学びの工夫
- ▶高齢者などを孤立させない学びの工夫

☞キーワード②【学びから実践へ】

◎学んだ成果を活かして、
地域での実践につなげるにはどのような工夫が必要か

- ▶個人の学びを実践につなげる工夫
- ▶ボランティア活動やまちづくり活動につながる学びの工夫
- ▶地域において子どもの学びや活動を支える人材を育成する工夫
- ▶学びを実践する場を提供する工夫

☞キーワード③【学びの工夫】

◎人生のそれぞれの時期における学びにどのような工夫が必要か

- ▶幼少期に学びの楽しさを知る工夫
- ▶成人期に人生の節目に対応した学びの工夫
- ▶高齢期に新たな興味関心や時代の変化に対応した学びの工夫

【臼井委員】

- ・大学生の就職に対する意識が、将来の転職を見越して変化している。
- ・高齢者の有職率が高いほど医療費は低い傾向がある。一人ひとりの「生涯現役」の実現が、実は社会への影響が大きい。
- ・成人期の中でもいくつか転機がある。40歳前後では仕事の幅を広げる必要に迫られ、50歳前後では先を見て次のステップを考えるなど。
- ・高齢期（65歳前後）においては、新しいことを始める人が多い。向学心や向上心がある人は楽しんで社会と関わる。これを支えるのが生涯学習環境。

【高橋委員】

- ・札幌市転入により社会との関わりがなくなってしまったので、それを取り戻すためボランティアを始めた。これにより新たなつながりが生まれた。
- ・高齢者のデジタルデバインド対策は重要。
- ・高齢期に入ると時間ができる。これを有効に使うような講座があると良い。
- ・夜間中学のボランティアから、学び直しのニーズと必要性を感じた。

【出口委員】

- ・国主導で社会教育から生涯学習に転換してきた経緯があり、それに伴い地方も名称だけは変わってきたが、本来の生涯学習が問われている。
- ・学ぶことの必要性は個々人に委ねられるものだが、そこに行政が関わることに意義がある。
- ・公民館の役割を研究している中で、貸館だけでなく、地域づくりに関わる必要性を感じている。
- ・学ぶこと自体が目的ではなく、アウトプット（実践）が大事。
- ・成人期は仕事で忙しいと言われるが、働くだけでなくまちづくりやボランティア活動に関わることが大事で、これを評価する仕組みが必要。
- ・学生に対しては、時代の変化に合わせて学びも変化する。学び続けることが大事という話をする。

【出葉委員】

- ・還暦を迎えて、時代状況の変化を感じる。公務員も定年延長の時代となり、ライフサイクルも変化する。
- ・教員の負担軽減やワークライフバランスが求められる時代となり、教員の働き方に対しても個々人のライフスタイルを重視するような感覚の変化が起きている。
- ・ICT化の急進に対して、子どもの適応力の高さを感じる。それに比べて大人がついていけない。対応力が求められる時代となった。
- ・こうした変化が早い時代を踏まえて、変わることに対応する学びの必要性を感じる。

【中野委員】

- ・吹奏楽を続けていて、高齢者楽団員の熱心さを感じ、改めて生きがいの重要性を感じる。生きがいの創出により元気な年寄りになることが大切。
- ・中学高校と部活動を続けていて、良い成績を残していても、燃え尽きてしまう子どもがいる。やりたい事を続けることの難しさを感じる。これを続けられる環境や再開する契機が必要。
- ・部活動の大事さは人間関係を作る力を養うところにある。連携やつながり作りを是非地域の力でやっていけると良い。

【本間委員】

- ・ 高齢期に入り、改めて学びの意味を考えている。
- ・ 各世代の中にも壁（節目）があり、これを乗り越える時がポイント。そこをスムーズにするためにも、学校で社会とのつながりを感じる機会を作ることが必要。サタデースクールのように、学校と地域をつなぐ取組みが大切。
- ・ 退職すると社会との接点が一度に切れる。これを緩やかにつながっていけるようにしていくことが必要。
- ・ 孤立しないためにも地域で学ぶ大事さを感じている。

【一戸委員】

- ・ 家庭の教育力の差を感じる。その差を地域で支える力があると良い。
- ・ 学校と社会教育のつながりや地域づくりにつながる社会教育が大事。
- ・ 学習の楽しさを子ども時代に感じてもらうことが大事で、これが生涯学習につながる。

【榊委員】

- ・ 子育ての大変さを一貫して研究しており、地域ぐるみで子どもを育てる必要性を感じている。子育てにおける学習と連帯から、つながりを生み出す学びが大事。
- ・ 人生における「壁」の存在は実感できるところ。問題は社会から孤立してしまうことで、そこで感じた人生の矛盾といったことが学びのリソースになる。

【鈴木議長】

- ・ まちづくり活動に関わる楽しさが研究の原点で、ポイントは一緒に育っていくものだという点。その意味で、地域が学校である。
- ・ まちづくりは作るものではない。最近では、「まち育て」という。
- ・ まちづくり活動の参加者は総じて女性が多い。しかし、地域の歴史などテーマによっては男性が出てくる。そうしたきっかけづくり（仕掛け）が必要。
- ・ 大人のカルチャーナイトで、地域の施設をうまく使って交流の場を作ると、それが次の活動につながる。
- ・ ボラベーション（ボランティア+イノベーション）研究会をやっており、地方におけるボランティア活動と体験や学びを組み合わせた取組みを実施している。